

第6回アフリカの平和・安全保障に関するダカール国際フォーラム開会式

中谷外務大臣政務官スピーチ

サル・セネガル共和国大統領閣下

ガズワニ・モーリタニア・イスラム共和国大統領閣下

御列席の皆様

第6回ダカール国際フォーラムの開会に際し、日本政府を代表してご挨拶申し上げます。まずはじめに、本フォーラムの開催にイニシアティブをとられたサル大統領をはじめとするセネガル政府の皆様、また、準備にあたられた多くの関係者の皆様に敬意を表し、御礼申し上げます。日本として、第1回目以降継続してこの重要なフォーラムの開催をフランスと共に支援していることを喜ばしく思います。

アフリカがサヘル地域等における紛争やテロの問題に直面する中、アフリカの角、サヘル地域等、アフリカの各地において、アフリカ主導の平和・安全保障に向けた取組が進展しています。国際社会は、多国間の協力を通じて、アフリカ自身の取組を後押ししていく必要があります。このような背景の下、今般、本フォーラムが「多国間主義の課題」をテーマとして開催されることは、大変時宜を得たものです。

本年8月、日本政府は、第7回アフリカ開発会議（T I C A D 7）を横浜で開催しました。T I C A Dは、アフリカのオーナーシップと国際社会とのパートナーシップを掲げた、まさに多国間主義を体現する開かれた包摂的なプラットフォームです。日本は、1993年に始めたT I C A Dを通じて、国際社会と手を携えながら、長年アフリカの取組を後押ししてきました。

8月のT I C A D 7では、多くのアフリカ諸国及び国際社会のパートナーが、全体会合に加え、サヘル及びアフリカの角に関する2つの特別会合を通じて、アフリカの平和と安定について活発な議論を交わしました。その機会に安倍総理が提唱した日本のイニシアティブが「アフリカの平和と安定のための新しいアプローチ、^ナ^ブ^サ N A P S A」です。

N A P S Aは、2つの柱から成ります。

一つ目の柱は、「紛争解決におけるアフリカのオーナーシップ」です。A U, ^レ^ッ^ク^ス ^{ジーファイブ} R E C s, G 5 サヘル等アフリカ主導の紛争解決努力が進展する中、アフリカが「運転席」に座る形で、紛争の予防、仲介、調停の取組を進めることが重要です。日本は、こうしたアフリカ主導の取組を支援します。

二つ目の柱は、「アフリカの平和と安定を阻害する根本原因へのアプローチ」です。持続可能な平和を実現するためには、軍事的な対症療法のみでは足りません。国家制度の脆弱性、若者を過激主義に引き込む土壌といった紛争の根本原因に着目する必要があります。

このような観点から、日本としては、N A P S Aの下で、具体的な取組を進めていきます。

例えば、A UやR E C ^{レックス} sによるアフリカ主導の調停・仲介を支援していきます。

また、アフリカ主導の平和維持活動を支援するため、フランスをはじめとする関係国と連携し、アフリカ各地のP K O訓練センターや国連P K O支援部隊早期展開プロジェクトを通じた能力構築支援を行います。

更に、日本は、制度構築・ガバナンス強化のため、司法・治安維持・国境管理等に係る6万人の人材育成を行います。

加えて、地域社会の強靱化、若者の過激化防止に向けては、市民社会に対する支援や雇用促進支援等も行っています。

御列席の皆様、

アフリカの平和・安全保障に向けた課題を解決するためには、国際協調を基礎とした多国間主義が不可欠です。今週末に名古屋で行われるG 2 0愛知・名古屋外務大臣会合では、日本は、G 2 0議長国として、「アフリカの開発」を主要議題の一つに掲げています。日本としては、G 2 0が連携してアフリカ主導の取組を支援していくことの重要性を名古屋から発信したいと考えています。

私は、政治の道に入る前、自衛官として、１０年間、日本及び国際の平和・安全保障のため尽力して参りました。平和を守るために額に汗してきた者の一人として、本フォーラムでの議論を通じ、アフリカの平和・安全保障のための協力が一層強化されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

（了）